

ブルーカーボンによる環境保全

鹿末芽依 岸田航 久米珠莉 世良優和

目次

- 1.背景・現状
- 2.既存の取り組み
- 3.問題・概要
- 4.私たちの案
- 5.メリット
- 6.具体例
- 7.参考文献

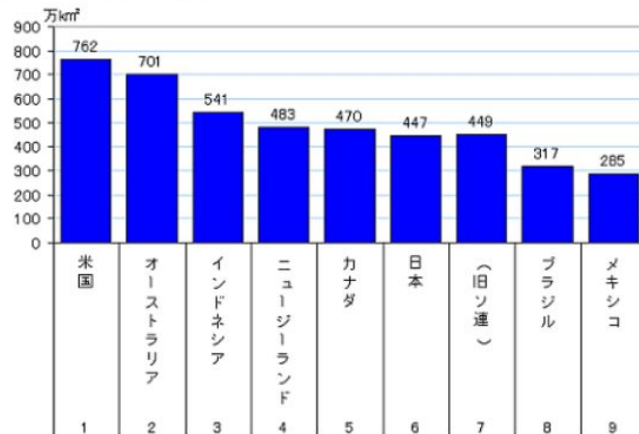
1.背景・現状①

海洋の二酸化炭素吸収量は陸上の**2.5倍**



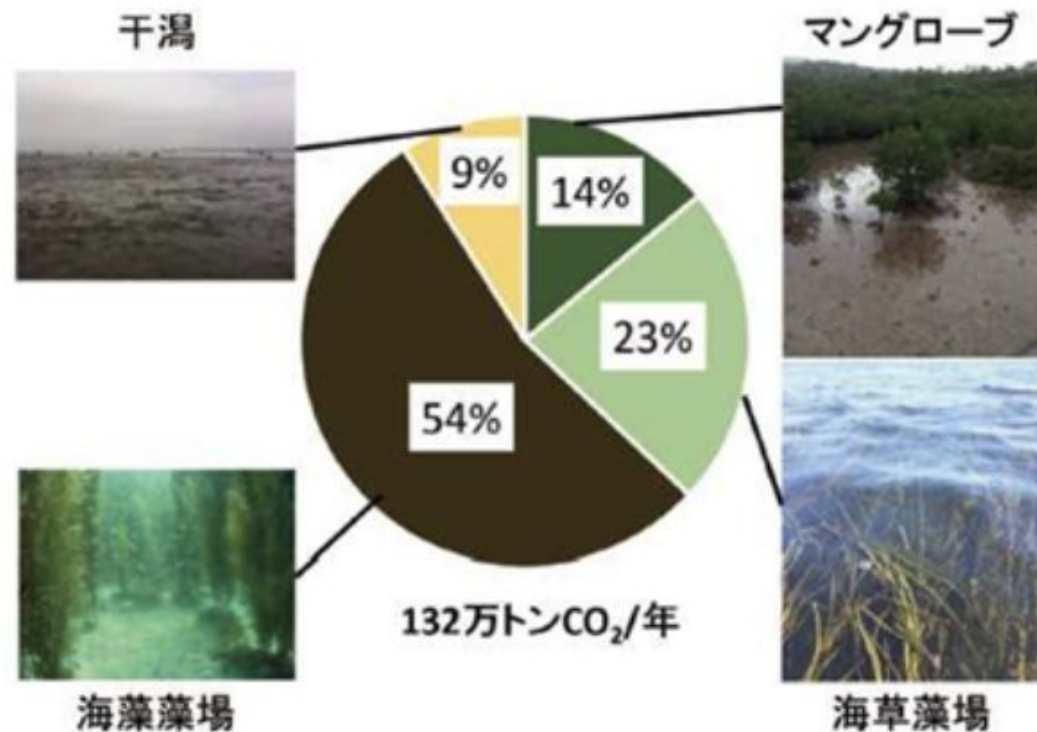
排出された二酸化炭素の行方

世界の排他的経済水域面積ランキング



世界の排他的経済水域面積ランキング

1.背景・現状②



日本の一年間の
CO₂排出量
約**10億**トン

図4 ブルーカーボンによる吸収ポテンシャルの全国推計

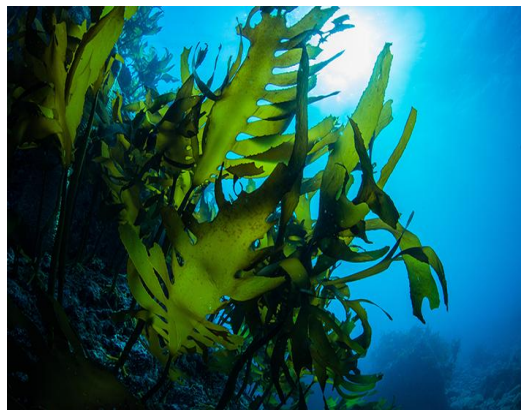
出典: 津海生態系を介した炭素フロー (化学工学 第85巻 第12号 2021)

1.背景・現状②

二酸化炭素を吸収する生態系



アマモ



コンブ



ガラモ

1.背景・現状②

アマモ 浅い海底に生えており、光合成で二酸化炭素を吸収し酸素を吸収し酸素を供給する海藻。

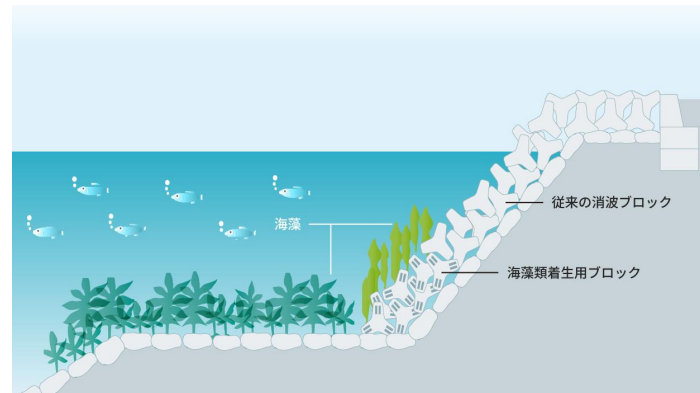
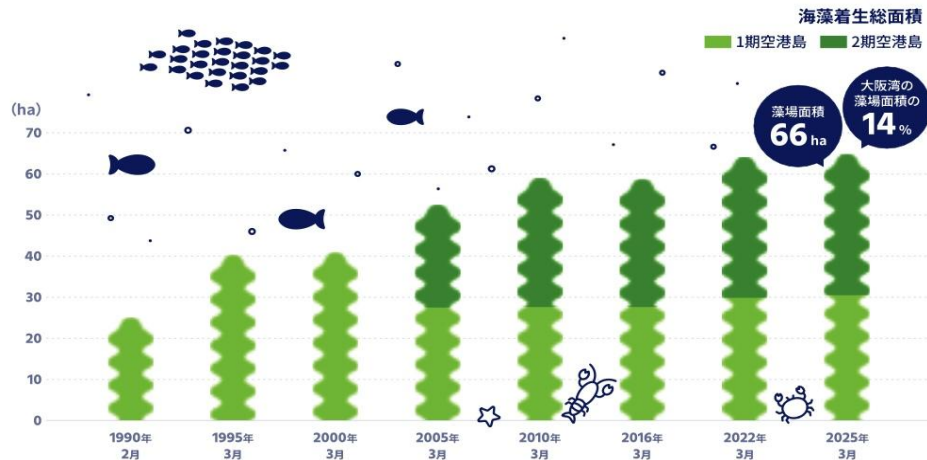


- ・気候変動による水温の上昇や水質汚染によりアマモ場が減少している
- ・赤潮の原因となる窒素やリンを吸収し、水質浄化をする
- ・多様な生物のすみかとなり多くの生物を育む
- ・二酸化炭素を吸収して体内に蓄え、海底に固定する
→ **ブルーカーボン**

2.既存の取り組み①

- ・関西国際空港島での **藻場造成**
継続的な藻場の育成、維持活動やモニタリング調査を実施

関西国際空港の藻場面積



2.既存の取り組み②

・**阪南市** のとりくみ

アマモを植栽し環境・生態系の保全と再生し地域や世代を超えた環境教育・意識向上そして漁業生産への貢献を目的にしている



2.既存の取り組み③

・**兵庫県**の取り組み

兵庫県が養殖ノリに着目し「ノリ養殖に関するブルーカーボンプレジット検討会」を設置、「兵庫モデル」の提言後、炭素含有量の分析、製造工程の省CO2化が行われた。



3.課題点

水質悪化

地球温暖化による影響

食害(ウニや巻貝、アイゴなど)

4. 私たちの案

取り組み①

今を知ってもらう活動

取り組み②

何か行動してみる

取り組み③

活動を報告、周知する

4.私たちの案

取り組み①

今を知ってもらう活動

- ・ 環境学習の充実 → 教育委員会と連携
小中学校への出前授業
- ・ 若者世代への発信 → SNS発信
- ・ 活動検索サイトの充実 → 自治体主体で安心感アップ
- ・ ふるさと納税の活用 → 専用サイトから自ずとPR
- ・ 自治体とのコラボ → イベントへの参加
市のイベント時のスクリーン動画
- ・ ブルーカーボンクレジットの周知

4. 私たちの案

取り組み①

今を知ってもらう活動

・ 活動検索サイトの充実

サイトの運営

県や市の環境
部門

一定の審査のうえで、団体を承認。

特別に地方税の寄付金控除対象に認定することも検討。※

情報の提供

活動を行う
団体

- ・ いつあるの？
- ・ だれが主催？
- ・ どこであるの？
- ・ 何をするの？
- ・ 持ち物、服装は？
- ・ 何歳から参加可能？
- ・ どんなことに興味のある人におすすめ？

的確で安全な情報の入手が可能

4. 私たちの案

取り組み①

今を知ってもらう活動

・ 若者世代への発信

既存の取り組み



インフルエンサーや
芸人達とのコラボ

環境コントなど若者に刺さる発信



コラボすることで、インターネットのサジェスト機能に追加され、今は関心を持たない人へも発信できる。

4. 私たちの案

知ってる？ 高校生が取り組んでいる環境学習



Blue Campusは、全国から集まった現役高校生による海の“今”を伝えるメディアで、全国の小中高校に海水温の上昇や磯焼けで海藻が減って危機状態にあることを紹介する“海の教科書”を作成、配布活動をしています。

出典（Blue Campus「Z世代が明日の海と語ってみた話」）



4. 私たちの案

取り組み②

何か行動してみる

- ワークショップの開催
- 活動検索サイトの充実 安心して活動に参加できる
海外では、州が管理しているサイトあり
- 支援を受けやすくするための寄付金控除などの条件緩和 ※

4.私たちの案

取り組み② 何か行動してみる

- ワークショップの開催

アマモ団子を作ってみよう！！

STEP1 団子を作る



STEP2 海に投げ込む



アマモのタネを砂や泥、
貝殻と一緒にガーゼで
包む又は、寒天で固め
る

岸壁や突堤から海
に投げ込む。



4. 私たちの案

取り組み③

活動を報告、周知する

- ・ 実際に行った活動や成果を報告、周知する。

企業側のメリット

- ・ 企業イメージアップ
- ・ 企業の社会的責任の実現
- ・ カーボンニュートラルの実現
- ・ 税金上のメリット
- ・ 企業のカラーを作りやすい
- ・ 活動で社員の団結力アップ

環境団体のメリット

- ・ 人手不足の解消
- ・ 資金不足の解消
- ・ 活動の広報が容易に
- ・ 環境意識の向上

5. メリット(会社)

会社のメリット

- ・会社のCSR・ESG評価の向上
- ・企業の独自性・差別化
- ・地域社会との連携強化
- ・社員の意識向上

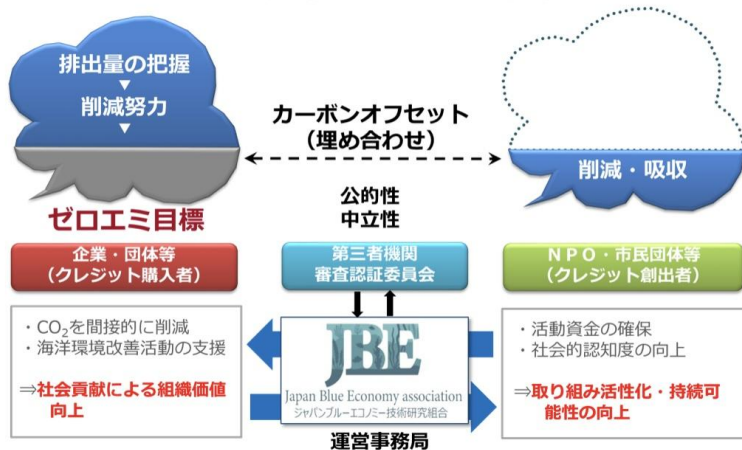
具体例

セブンイレブン

→食を支える海を守り、将来の事業と信頼を守れる。食の未来の自己投資

セブンイレブン

オフセットクレジット制度



ジャパングループエコノミー技術研究組合のホームページ

<https://www.blueeconomy.jp>

セブン-イレブンはアマモ場づくりを推進しています

『Jブルークレジット・カーボンオフセット』に参画
株式会社セブン-イレブン・ジャパン（本社：東京都
千代田区、代表取締役社長：永松 文彦、以下：セブ
ン-イレブン）は、国土交通大臣認可法人である「ジ
ャパンブルーエコノミー技術研究組合」が発行する
『Jブルークレジット・カーボンオフセット』に参画
いたします。

セブン-イレブンでは、これまでも一般財団法人セブン-イレブン記念財団（以下：セブン-イレブン記念財団）を通じて、水質浄化やCO2削減に役立つアマモを増やして、東京湾を豊かな海に再生する活動に2011年度から取り組んでまいりました。

またセブン-イレブンでは現在、再生可能エネルギーの利活用や省エネ設備の導入などを進め、CO2排出量の削減に取り組んでおります。これらの取り組みに加え、今回の『Jブルークレジット』購入を通じ、クレジット創出者である横浜港における藻場づくり活動の取り組みの活性化・持続可能性の向上に繋げ、更なるCO2排出量の削減に寄与してまいります。

セブン-イレブンではこれからも、セブン-イレブン記念財団とともに、森・里・川・海の豊かな恵みを次世代へつなげる活動を支援してまいります。

メリット(環境)

環境へのメリット

- ・二酸化炭素の吸収・固定
- ・海の生態系の回復
- ・水質の改善
- ・海底環境の安定

6.参考文献

日経新聞、意外に少ない太平洋のco2吸収気象庁が観測

[世界6位の面積を持つ海洋国家 JAPAN - 日本探偵業協会](#)

既存の取り組み①<https://www.kansai-airports.co.jp>

既存の取り組み②<https://www.eneos.co.>

既存の取り組み③<https://blueshipjapan.com/issues/vol32/>

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk23/documents/mat3hyogomodel.pdf>

<https://sumaurasuisan.jp/>

ご清聴ありがとうございました。